

215 穂積陳重博士就職満二十五年祝賀会

〔法学新報〕第十六卷十三（一九三三）号

明治三十九年十二月一日

○穂積陳重博士就職満二十五年祝賀会 法学博士穂積陳重氏
大学教授就職満二十五年祝賀会は去月十五日を以て土方岡野
等諸博士の発起に依り上野精養軒に開催せらる博士の始めて
教鞭を執られしは明治十四年にして今の東京帝国大学の前身
たる東京大学か東京開成学校と東京医学校とを合同して其基
礎を成したるの時に在り爾来二十五年の久しき未だ一回も其
職を離れたることなく其瑞西万国公法会議に臨みて日本に於
ける領事裁判権の撤廃を主張せられたる法典編纂委員として
民商法の起草に尽瘁せられたる又先年米国に万国学芸会議の
開催せらるるや我国の委員として出席し世界法典論を講せら
れたる如き斯学界に功績多大の偉人たり当日は土方博士より
記念事業として今回募集済となれる一万一千円の記念寄附金
を以て穂積奨学財団を設立する旨を披露して宴会に移り富井
博士来会一同に代りて挨拶を述へ穂積博士の答辞牧野文相の

祝詞濱尾総長の演説加藤弘之博士の祝辞ありて午後八時散会
したり来会者は牧野文相、濱尾総長を始め朝野の紳士無慮二
百名なりしと云ふ